

Adobe ColdFusion 10

ライセンス・価格について

2012.6.18

株式会社サムライズ

アドビ・ソフトウェア事業部
ColdFusion ビジネスユニット



■内容

- 1.エディションの種類
- 2.ライセンスの数え方
- 3.注意点
- 4.AdobeM&Sの提供期間

■別紙

- ・標準価格一覧表
- ・「ダウングレード申請書」

1.エディションの種類



2012年5月16日のリリース現在はColdFusion9と同様。

【有償ライセンス】

- エンタープライズ版
- スタンダード版

【無償ライセンス】 **商用利用不可**

- 体験版（トライアル版）
エンタープライズ版の機能すべてを搭載。
インストールから30日間は、一切の制限なく利用が可能。
(30日後は自動的にデベロッパー版に変わる)
- デベロッパー版（開発者版）
テストと開発を目的とした使用にのみ利用可能なライセンス
接続可能なIPアドレスが2つに制限されている

2.ライセンスの数え方



CF10ではライセンスの数え方に変更が発生。
CF9との相違点に注意が必要。

EULA（製品使用許諾）で想定されている環境は下記の3種類

- ① オンプレミスの場合
- ② オンプレミスで仮想環境上で利用する場合
- ③ クラウド環境で利用する場合
(またはサーバの総コア数、総物理CPUが把握できない環境の場合)

※ここでの「オンプレミス」は、自社運用・自社管理下設備での機材の運用、と定義します。

① オンプレミスの場合



	CF ColdFusion 9	Cf ColdFusion 10
エンタープライズ版 スタンダード版	<ul style="list-style-type: none">物理CPUでのみカウントしマルチコアの場合もコアは無視して数えない1サーバにつき2CPUまでは1ライセンスでOK	<ul style="list-style-type: none">コアもカウントする 具体的には4コア = 1CPU1サーバにつき2CPUまでは1ライセンスでOK (CF9と同様)まず、4コア=1CPUとして総コア数からインストールするサーバの必要ライセンス数を算出。次に物理CPUでカウントし、数が多いほうが必要ライセンス数。(端数は四捨五入) <p>要するに、</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none">① 物理CPU ÷ 2 = 必要ライセンス数② 総コア数 ÷ 8 = 必要ライセンス数 <p>上記の①と②で数の多い方が必要ライセンス数。</p>



② オンプレミスで仮想環境上で利用する場合



	CF ColdFusion 9	Cf ColdFusion 10
エンタープライズ版	<ul style="list-style-type: none"> ・インストールするサーバの物理CPU数÷2が必要ライセンス数 ・利用できるゲストOS数は制限なし（無制限） 	<ul style="list-style-type: none"> ・4コア=1CPUで、1サーバにつき2CPUまでは1ライセンスでOK（総コア数÷8が必要ライセンス数） ・利用できるゲストOS数は制限なし（無制限）
スタンダード版	<ul style="list-style-type: none"> ・まずインストールするサーバの物理CPU数÷2でライセンスを算出。 次に利用するゲストOS数と比較し、数が多い方が必要ライセンス数になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、4コア=1CPUとして、インストールするサーバの必要ライセンス数を算出。 次に利用するゲストOS数と比較し、数が多いほうが必要ライセンス数になる。

③クラウド環境上で利用する場合



	 ColdFusion 9	 ColdFusion 10
エンタープライズ版	<ul style="list-style-type: none">• 1ライセンスで10インスタンスまで利用可能	<ul style="list-style-type: none">• 16GHzにつき、1ライセンスが必要。または、利用するクラウドインスタンスの総処理能力を16で割った数が必要ライセンス数• 利用できるインスタンス数には制限なし
スタンダード版	<ul style="list-style-type: none">• 1ライセンスにつき1インスタンス利用可能。	<ul style="list-style-type: none">• 5GHz内での利用が条件。• 1ライセンスにつき1インスタンス利用可能

※「インスタンス」=「仮想マシン」、「仮想サーバ」

例



	CF ColdFusion 9	Cf ColdFusion 10
<p>オンプレミスの場合で、CFをインストールするサーバが物理で4CPU、コアが2コアの場合</p>	<p>必要ライセンス数：2</p> <p>物理CPU「4」÷2=2</p>	<p>必要ライセンス数：2</p> <p>①物理CPU「4」÷2=2</p> <p>②総コア数「8」÷8=1</p> <p>→数量の多い①が必要ライセンス数</p>
<p>オンプレミスの場合で、CFをインストールするサーバが物理で2CPU、コアが6コアの場合</p>	<p>必要ライセンス数：1</p> <p>物理CPU「2」÷2=1</p>	<p>必要ライセンス数：2</p> <p>①物理CPU「2」÷2=1</p> <p>②総コア数「12」÷8=1.5 →四捨五入で「2」</p> <p>→数量の多い②が必要ライセンス数</p>

3.注意点



- ColdFusion 9は2012年5月25日を以って受注受付終了。
5月28日以降の現行販売バージョンはColdFusion 10のみ。
- ColdFusion 10を購入し「ダウングレード申請」を行うことで、ColdFusion 9の利用と入手が可能。同時にM&Sを購入した場合のサポート対象バージョンはColdFusion9。

※9のメーカーサポートが提供される2016年12月31日迄の期間。
詳細は次ページ参照。

ただし2012年6月1日以降は、ColdFusion 9にダウングレードして利用する場合も、ColdFusion 10のライセンスの考え方でライセンス数を算出する必要がある。

- CF8またはCF9の有効なM&Sを持っている場合、M&Sの権利として、M&Sの有効期間中はいつでも、無償アップグレード申請（FOC）をおこないColdFusion 10を無償で入手することができる。

ただし、FOCをおこなう同時に、ColdFusion 10のライセンスの考え方でライセンスを数えなおす必要がある。それによりライセンスが不足した場合は追加購入が必要。

4.Adobeメンテナンス&サポートの提供期間



・メーカーがAdobeになってからは、それぞれのバージョンごとに予めAdobeメンテナンス&サポートの提供期間が、販売開始と共に定められるようになりました。仮に次々と新バージョンが発売されたとしても、それにより旧バージョンのAdobeメンテナンス&サポートの提供期間が短くなることはありません。

2012/5 現在

製品名	Version	販売開始日	通常サポート (コアサポート) 終了日	特別延長サポート (エクステンドサポート) 終了日
Adobe ColdFusion	10.x	2012年5月15日	2017年5月15日	2019年5月15日
Adobe ColdFusion	9.x	2009年10月5日	2014年12月31日	2016年12月31日
Adobe ColdFusion	8.x.x	2007年7月30日	2012年7月31日	2014年7月31日
Macromedia ColdFusion	7.x.x	2005年2月7日	2010年2月7日	2012年2月7日
Adobe ColdFusion Builder	2.x	2011年5月3日	2016年5月31日	2018年5月31日
Adobe ColdFusion Builder	1	2006年6月28日	2011年6月28日	2013年6月28日

http://www.adobe.com/support/products/enterprise/eol/eol_matrix.html#63



ColdFusion



ColdFusionBuilder



FlashMediaServer



FlashAccess



Connect



InDesignServerCS



FlashBuilder



LiveCycle

【Adobeサーバ製品全般のお問い合わせ先】



株式会社サムライズ

アドビ・ソフトウェア事業部

Tel : 03-5548-8822

Mail : adobe_partner@samuraiz.co.jp